

第 8 回日本癌病態治療研究会の 開催にあたって



高知医科大学免疫学教室 藤本重義

第 8 回癌病態治療研究会をここ黒潮の荒波に育まれた南国土佐の高知市で開催させていただくことになりました。この研究会がはじまって以来はじめて、教室員も少なく、財源も豊かでない基礎医学教室の私共がお世話させていただくということで、これまでの立派な研究会の運営に比べ、どれだけご期待にそえることができるかと、現在鋭意準備を進めております。

本研究会は“がん”に関する基礎医学と臨床医学の研究成果を新しい治療法の開発に活かしていくための情報交換の場であると考えます。近年、分子生物学的技法の急激な進歩により、がんの特性、診断、治療、予後に関する種々のパラメーターを用いた遺伝子診断のデータが蓄積されつつあります。これらのデータの集積と解析から、21 世紀へ向けて“がん”に対する治療法は変容していくのではないかと考えられます。一方、長い間、転移を含めて進行癌に対する治療法として患者の QOL を第一義的に考えながら個別的に開発をつづけてきた免疫療法が、真に今後がんに対する第 IV の治療法として 21 世紀に向けて認知され、確立されうるか否かも大きな問題であると考えます。

そこで、“がん”を取り巻くさまざまな領域の研究から、本年の研究会は、癌の特性に関する演題から 8 題を選び、ワークショップ：“癌の特性”を一つ、がんの免疫療法に関する演題からシンポジウム二つ：“癌免疫療法 (I)” 7 題、“癌免疫療法 (II)” 9 題を企画いたしました。その他、一般口演 37 題をがん免疫、治療 (I)、治療 (II)、転移 (I)、転移 (II)、病態 (I)、病態 (II)、病態 (III) の 8 セッションに分け、すべて口演発表として討議を活発にさせていただけるようにいたしました。特別講演として宮坂昌之先生に「局所へのリンパ球動員の機構解析—リンパ球ホーミングを媒介する高内皮細静脈 (HEV) 特異的遺伝子の探索と同定の試み」と題する最新の知見をお話ししていただけたと思います。また、ランチョンセミナーとして 21 世紀のがんの免疫治療の一つとなり得る可能性のあるお話を珠玖 洋先生に「癌抗原の分子同定から治療へ」というタ

イトルでご講演いただけることになっております。

その他、この研究会の特色として、研究会がサポートしている恒例の共同研究班（分子標的化学療法班，メタアナリシス班）の研究成果の年次報告も行われます。また、今年より本研究会が奨励研究として取り上げた研究成果についての発表報告（4題）も行われる予定です。それぞれの成果をご期待いただきたいと思います。

ご多用のなかご司会，ならびに座長の労をお引き受けいただいた先生方には，心から感謝いたしますと同時に，格別のご高配を賜りたくお願い申し上げます。

終わりに，本研究会が実があり，また心地よい研究会になりますように奮励努力いたす所存でございます。

第 8 回 日本癌病態治療研究会

当番世話人：藤本重義（高知医科大学免疫学教室）

開 催 日：平成 11 年 5 月 21 日

場 所：高知新阪急ホテル

連絡先および事務担当

〒 783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知医科大学免疫学教室

第 8 回日本癌病態治療研究会

濱里真二

TEL 0888-80-2317 FAX 0888-80-2320